

ワークショップ①

11/23 土

13:40 ▶ 15:10

第3会場 定員50名

患者さんを診る 理由がわかる臨床解剖学講座

川岸 久太郎 山形大学医学部 解剖学第1講座 教授



フィジカルアセスメントを行い、種々の侵襲的医療行為を行う際、人体の解剖生理を十分理解している事が重要であることは言うまでもない。臨床に即した解剖学の講義を体験してもらい、臨床におけるフィジカルアセスメントや医療行為に関連した解剖を3次元的に理解してもらうための工夫を共有することを目的としている。

ワークショップ②

11/23 土

13:40 ▶ 15:10

第6会場 定員20名

臨床実践は研究の場

～学術的アウトプットをしてみませんか～

太田 龍一 雲南市立病院 地域ケア科診療部長



実践的なケースレポートや研究を作成するための知識とスキルを提供することを目的とする。ケースレポート作成のポイント、エビデンスに基づくアプローチの重要性についての説明やディスカッションを通して、効果的な書き方やデータ分析の手法を学ぶ。参加者の方が直面する具体的な臨床の課題を研究に結びつけるプロセスを対話の中で作っていきたく考えている。

ワークショップ③

11/23 土

15:30 ▶ 17:00

第6会場 定員50名

ケーススタディワークショップ

～臨床現場での実践力を磨く～

青柳 智和 水戸済生会総合病院



診断に必要な因子は何だろうか？それは、「情報収集」に尽きる。いかに診断に役立つ情報を医師に提供できるか、これは必ず看護師が鍛えなければいけないスキルである。受動的な情報収集が早期の診断と早期の治療に直接役に立つ。3つのケースからディスカッションを通じて「アセスメント」を深めていきたい。患者の最も近くにいる看護師が、最後の砦として確実に機能するために。

ワークショップ④

11/24 日

10:20 ▶ 11:50

第4会場 定員20名

明日から始めるCultural Safety Care & 英語で問診！

～多彩な文化的背景を考慮した医療コミュニケーションに触れてみませんか？～

所 和香子 Royal Jubilee Hospital, Heart Health, division of cardiac surgery

このワークショップでは、現在カナダでNPとして実践している講師が、Cultural Safety をふまえた診察のデモンストラクションを英語で行います。Cultural Safety Careの実際を見学できるだけでなく、英語のブラッシュアップにもなる貴重な機会です。また講師は日本人のため、日本語での質疑応答も可能です。明日からのご自身のコミュニケーションスキルに磨きをかけ、NPの新たなコンピテンシー、Cultural Safety Careをぜひ体験しませんか？Let's enjoy it together!

ワークショップ⑤

11/24 日

10:20 ▶ 11:50

第6会場 定員50名

急性呼吸不全における人工呼吸器設定のTips

大村 和也 国際医療福祉大学成田病院 集中治療科副部長



本ワークショップでは、前半に急性呼吸不全に対する人工呼吸管理について分かりやすく紐解いていきます。まずは、肺保護換気戦略についての最新の知識を知り、苦手意識を取り除くことを目的にします。その上で後半には、シミュレーターを用いて、症例ベースで人工呼吸器の設定を自分でを行い、その設定が適切であるのか考えてもらおうと思います。このプログラムが終了した時には、人工呼吸器に関するレベルが確実に上がっていることでしょう。

ワークショップ申込：先着順 ※ワークショップのお申し込みには学術集会の参加登録が必要です。お支払いをお済ませの上、お申し込みください。

二次元コードもしくは学会HPの申し込みフォームよりお申し込みください

申込期間：2024.11.1（金）午前10時～2024.11.15（金）午後5時

問合せ先 第10回日本NP学会学術集会事務局 jsnp2024@gmail.com

